

議 事 録

件名 アパレル造形科パタンナーコース 教育編成委員会 管理No 6

日 時	2021年3月
場 所	
出 席 者	一般社団法人 日本アパレル・ファッション産業協会 北畑様 一般社団法人 日本モデルエージェンシー協会 岩田 佳典様 株式会社クレヨン 田中様(都合により欠席につき資料にてフフィードバック) 有限会社ビーシーコスチューム 太田 えりこ様 ソーイングアサヒ株式会社 代表取締役 高橋英一朗様 株式会社玉屋 代表取締役 竹田 篤史 東京服飾専門学校 山下節子(副校長) 大滝秀一(学科長) 古賀由紀夫 リビ 裕子 鷲 典子 中島由紀子 荒井光(下段4名 学生対応のため欠席)
欠 席 者	5名
概 要	1.次年度における各科カリキュラム、シラバスの配布と編成経緯、変更点、留意点について。 2.次年度における産学連携、職業実践体験プログラムの実施内容調整
内 容	コロナ感染症の蔓延防止の為、委員会を文章による意見交換するものとした。 ① ・教育課程編成委員会の学内位置付けと、教育内容向上へのご意見を願ひ。 ・第6回 教育編成委員会の目的と議事項目 ②産学連携授業の実施結果 産学連携授業については、昨年同様に実施ができたことによって知識と技術の習得が例年通りに行えた。しかし、研修やインターシップの件数は減少し、実務の体験機会減少については学生の希望に添いきれなかった点である。 ③今後の展望や問題点、課題 令和2年度のアパレル造形科については、商品企画におけるデザイン考察の方向性や重要な要素について、日頃の授業における課題と実務との違いを肌で感じることで重要な機会であり、「トレンド分析・産学連携実習」をはじめとする実務経験を主体とする授業において得た、企業担当講師からの指導や評価は、学生個々の客観的で自覚的な評価になっているものと思う。 一方で、技術の習得においては反復することにより習熟度をあげる必要もあり、他の教科との連携や時間数の増加などを検討する。 ④令和2年度の修学成果 業界にとって、コロナ感染症対策によるところの変化が大きく、本学では3月からオンライン授業の実施に向けた機材や環境整備により「学びを止めない」ことができた。また徹底した感染対策を行い、オンラインに重点を置いただけではなく、対面授業の実施と併用を進めて、いつでも変更できるような時間割のシフトを複数パターン用意して状況に即対応した。結果として夏休みの縮小、秋休みの中止によって修学時間も例年とはほぼ同じ時間数を行うことが出来た。 学生の就職においては、営業自粛などから経済的な後退が見られ、求人数が大きく減少したことにより、内定率については過去最低となった。本学においては、就職未決定者へのフォローを引き続き行うことが決定しており、卒業後も登校形態で、業界研究や就職活動のサポートを行うこととしている。

添 付 資 料	当日の配布物:産学連携関係授業シラバス
決 定 事 項	
課 題 事 項	③、④を参照
次 回 日 程	2021.8
特 記 事 項	

	作成者
	大滝